

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・通年・A群	
	対象学科・専攻	電気電子・土木	
日本語表現 (Japanese Literature)	担当教員	小野益夫 (Ono, Masuo)	
	教員室	共通棟 1階非常勤講師室	
	E-Mail	m-tanaka@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位[講義] / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(80分)〕 × 30回		
〔本科目の目標〕 実践的技術者として必要な文章表現能力および口頭表現能力を育成するとともに、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を養う。			
〔本科目の位置付け〕 3年次における「現代語」の学習をふまえ、より実践的、応用的な言語表現能力の育成をはかる。そのため、演習を多く取り入れ、表現形式の習得のみでなく、目的や場に応じて適切かつ効果的に表現する能力の育成を重視する。講義内容をよく理解し定着させるために、復習として自学自習が必要である。			
〔学習上の留意点〕 日本語に関心を持ち、種々の課題に対し自ら考える態度が必要である。 語彙力を強化し表現技法に習熟する。様々な文章に触れ、教養を深める。 提出物を期限内に出す。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標	
1.文字と表記	5	・日本語の最も基本である文字と表記について正しく理解し、正しい日本語表現ができる。	
2.語彙・語法	5	・日本語の語彙・語法について理解し、正しく表記することができる。	
3.ことわざ・故事成語	5	・日常表現としてのことわざ・故事成語の意味を正しく理解することで、的確に表現することができる。	
4.文章の種類	5	・目的に応じた様々な文章様式を理解することで、自分の考えを適切に伝えることができる。	
5.敬語法	5	・相手や場面に応じた敬語表現を理解し、適切に用いることができる。	
6.文学的文章	5	・作品の読解を通して、表現方法の多様性と可能性を理解できる。	
前期期末試験		授業項目1～6について達成度を確認する。	
7.原稿用紙の使い方	4	・正しい原稿用紙の使い方を身に付けることができる。	
8.推敲の仕方	4	・正しい文章を自ら導く方法を身に付けることができる。	
9.文章の構成	4	・目的に応じた文章構成法を学び、効果的に内容を伝えることができる。	
10.小論文の書き方	5	・課題を的確に把握し、自分の意見を明確に表現することができる。	
11.手紙と事務文章	5	・手紙や通知文に関する基本的な知識を身に付け、実践することができる。	
12.履歴書	5	・履歴書の形式・目的を理解し、作成することができる。	
13.作品鑑賞	3	・作品の趣旨を理解し、味わい、その作品世界を楽しむことができる。	
後期期末試験		授業項目7～13について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説		各試験において誤った部分を理解する。	
〔教科書〕なし 〔参考書・補助教材〕適宜資料を配付する。			
〔成績評価の基準〕定期試験成績(70%) + 提出物・小テスト等の平常点(20%) - 授業態度(最大20%)			
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕1-a, 2-a 〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕2-1, 2-2 〔JABEEとの関連〕(a), (f)			